

# 街づくり セミナー だより②

【第2号】平成25年4月7日  
世田谷区 都市整備部

## 街づくりセミナー開催の主旨とニュースの発行

世田谷区では平成26年度末を目途に、世田谷区都市整備方針の改定作業を進めていますが、多くの区民の方に参加いただき、改定作業を進めるため、都市整備方針を“知ってもらふ・学んでもらふ・関心をもってもらふ”機会として、テーマ別連続講演と意見交換による街づくりセミナーを開催しております。(全5回)



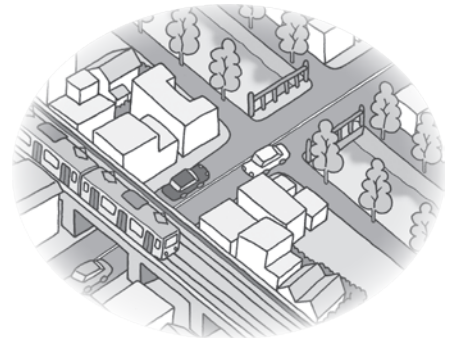
今号は3月9日に開催した、自治体まちづくり研究所の原昭夫氏を講師に招いた第2回の概要をお伝えします。

## 都市整備方針とは…

「世田谷区街づくり条例」を根拠とする、都市計画に関する基本的な方針です。

※都市計画法第18条の2に定められているマスタープランを指しています。

都市で安全かつ快適に暮らし働くためには、土地の使い方や建物の建て方のルールを定め、道路や公園などを計画的に整備し、また、防災や風景づくりを進めていく必要があります。都市整備方針は、このための方針を定めたものです。



## 第2回街づくりセミナーのプログラム

- 区長あいさつ
- 大災害に備えた区の取り組み状況の説明  
区都市整備部長
- 講師による講演会(大災害に備えた環境整備)  
原 昭夫/自治体まちづくり研究所所長
- 意見交換
- テーブル・ディスカッションと発表

(参加者:20名)

## 区による取り組み状況説明

- 世田谷区の弱点は、建物倒壊の危険性、火災の危険性、震災時の消火活動の困難度である。
- 世田谷の建物は、約93,000戸が未耐震(木造・非木造未耐震)で、この地域では発火率も高まると考えられる。
- 住宅の耐震化には区からの助成制度がある。
- 直下型地震の被害想定では、区の都市計画公園150haは避難者で埋め尽くされる。
- 区の最近の取り組みは、新たな防火規制の指定、特定防災街区整備地区の指定、復興街づくり模擬訓練などである。

## 今後の開催予定

第3回…4月7日(日)13:30~/世田谷区議会大会議室

### 【テーマ3】みどりの保全と創出

講師:阿部 伸太/東京農業大学地域環境科学部造園科学科 准教授

第4回…4月20日(土)13:30~/世田谷産業プラザ

### 【テーマ4】(仮)都市交通に関するテーマ

講師:小嶋 勝衛/(財)建築・まちづくり協力研究所 理事長

第5回…5月11日(土)13:30~/生活工房セミナールーム

### 【テーマ5】景観づくりと都市の魅力

講師:後藤 春彦/早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授

## 世田谷区の被害想定概要

・想定する地震の条件

震源:東京湾北部 規模:マグニチュード7.3

季節:冬の平日、午後6時 天気:晴れ、風速8m/秒

●人の被害:死者655人、負傷者7,449人

●建物の被害:全壊または全焼 28,529棟

●生活の被害:

帰宅困難者 16,8047人

避難人口 242,390人

※説明で使用したスライドより

### 講演内容

防災・復興まちづくりについて、政策略史の説明がありました。

- 災害（地震、大火、津波、噴火等）に応じて、法制度が整備されてきたが、個別、短期の対応であって、コミュニティの復興については支援をしにくい内容になっている。
- 地域社会を復興することが重要で、トルコ地震の復興例では仮設住宅に図書館や職業訓練所が併設された。
- 空いている施設（含空き家）をコミュニティの一体化のために転換できる社会が望ましい。
- 地域のつながりや地域防災力の向上が大切で、子供の参加も重要だ。

大災害に備えた環境整備（個別テーマ）は次のとおり整理されました。

- ①狭い道路をどうするか
- ②学校を避難所化することはどうか
- ③防災学習のあり方
- ④様々な訓練を効果的にするには
- ⑤災害時の高齢者（要援護者）をどうするか
- ⑥コミュニティの復興（再生）をどうするか



### テーマに関する意見交換

（Qは、参加者による質問や意見。Aは、講師による回答）

Q：TVの番組で環7は、震災時は自動車の火に包まれるといったシミュレーションを行っていた。沿線は木造密集地域だし、延焼遮断帯としての役割をどう考えるべきか。道路整備は必要か。

A：悩ましい問題だ。区の道路率は低く、救援物資を運ぶという重要性が一方である。広幅員道路と狭幅員道路をどう使い分けるかだと思う。

Q：仮設市街地の場所は大規模公園だけか。空き地や空家を共同管理・利用することが重要なので

はないか。

A：ストックを生かすということは大切だ。このようなスペースや公共施設を、日常と非日常に使えるデュアルモード（二重）社会としておくことが大切だ。

Q：木造密集地域にポケットパークをつくり、防火水槽を設置すべきだ。

A：公園以外にも学校など、使える施設のイメージを持つことと、使う訓練をしておくことが大切だ。

### テーブルディスカッションによる発表内容

（ ）内はチームが選択した個別テーマ

チーム別で、個別のテーマを選択して議論をしました。総括では講師が、「コミュニティをどうするかが重要。

今あるものを組み合わせ、子供をしっかりと取り込むことが重要だ」と述べられました。



#### チームA（コミュニティ、防災機能の一本化）

- 災害時は障害者の援助など対策（社会福祉協議会が中心となった災害ボランティアの設立等）が必要だ。また、区の防災機能（センター）を一本化すべきだ。

#### チームC（狭い道路）

- 自助の点で建物を燃えにくくし、共助の点で街路消火器などを増やすべきだ。また、隣の庭先を避難ルートにするなどが必要だ。

#### チームB（狭い道路、コミュニティ、合意形成）

- 狭い道路については、消防車が通れるように拡幅することも必要だが、それによる立ち退きによってコミュニティが分断される心配がある。

#### チームD（コミュニティ）

- ワンルームマンションはコミュニティが作りにくい。地域居住者としての最低限のルールを考え、伝えることが必要ではないか。昼間と夜間を分けた防災訓練を考える。